

改めて僧侶の資質とは何か

- 一.) 仏教（戒律）を生きる人
- 一.) 我の強くない人（信念は大事）
- 一.) 欲のない人（特に金銭）
- 一.) 損して得とれる人
- 一.) 利他の人
- 一.) 法話の上手な人
- 一.) お経の上手な人
- 一.) 教養人（勉強家・努力家）
- 一.) 僧侶としての品格・雰囲気のある人
- 一.) 智慧と慈悲を備えた人

※ この中に○△×を入れていただきます。

○ …3 点

△ …1 点

× …0 点

合計が 20 点以上に達した人が合格です。

私は最近とみに僧侶はもういないという考えを持ち、またそういう時代になったと認識しております。これまでは仏教興隆、寺門発展のために僧侶のお勤め（仕事）を増やしそのために僧侶を育成し、採用もしてきましたがこれがあまり意味がなかったことを悟りました。収入を増やすために事業を拡張し、そこに僧侶をあてがう。それにより経験を積ませ広く世のため人のために貢献していただく。

そこからすばらしい僧侶が輩出できればと念願しておりました。しかし結果的には我利我利亡者の温床と化してしまった側面は否めません。かといって近隣寺院や一部の愚かな宗門人たちから思えば遥かにましな人たちではあるのですが。

これからは審査を厳格にし資質と素養を兼ね備えているかを吟味します。その上で改めて採用をし育成していく道を選ぶことにしました。僧侶に向いていない人をいくら育成しても無駄です。僧侶の資質を持ち合わせていない人に社会貢献ができるような布教は出来ません。ましてや信者の獲得など夢のまた夢です。誰でも僧侶になれる道、時代は終わりにしないとイケません。一生を修行僧として身に粉にして働き、低姿勢を貫いてゆける人だけでよいのです。役僧とはあくまでも従業員です。何かにつけて口応えをし、言い訳をする者がいましたが論外です。

いづれにしてももうこのままでは僧侶が活躍できる場所、生きていく余地はそうそうありません。形骸化した葬式仏教の中でさらなる弊害を生み、残された道は衰退・消滅しかありません。これは檀家制を是としてきた（檀）信徒にも責任があります。今日の日本仏教の体たらくは僧侶だけが悪いのではなくそれを推進してきた（檀）信徒や宗門にも原因があります。もう残された時間はあまりありません。コロナ禍の中で日本仏教が生まれ変わる唯一の方法は組織の解体と僧侶の意識改革しかありません。私はこれまでもこれからもその先頭に立っていく所存と覚悟です。賛同していただける同志の結集を呼びかけていきます。令和の時代に新しい本物のお寺を僧侶を宗門をつくっていかうではありませんか。もうニセモノはいらない。本物だけにしようではありませんか。

（令和2年8月2日 見性院住職記）

今月の住職のことは

- 一. 天上界から見た人間界に不思議なことなし。
- 一. 損して得とれた人が結局大成す
天は見てる。
- 一. 自分が悪かった、すべての責任は
自分があると気づいた時、光明は
さし、視界は晴れるものです。
- 一. 僧侶の魅力は人間力しかなかった。

(令和2年8月2日 見性院住職記)

コロナに思う「自分ともうとまだ」

自分の力で生きていく
自分ひとりで生きていく
自分の覚悟で生きていく

もうこれ以上お坊さんはいらなくなる
もうこれ以上お寺はいらなくなる
もうこれ以上宗派はいらなくなる

まだやめないをやめる
まだいるをやめる
まだしないをやめる

(令和2年7月28日 見性院 住職 記)